

第6回 長久手町住民会議報告

～「長久手まちづくり」住民サミット～

日時：平成20年6月24日（火） 午後7時～9時

場所：長久手まちづくりセンター2階集会室

住民会議メンバー：13名

事務局：長久手町企画政策課 課長補佐、専門員、主事
コンサルタント4名

当日のプログラム

○あいさつ

○議 題

①提案書素案の内容の検討について

- ・ グループ討議
- ・ グループ発表

②その他



■（1）あいさつ

冒頭に企画政策課長補佐があいさつを行いました。

■（2）提案書素案について

配布した提案書素案をもとに、以下の4つの将来ビジョンなど、事務局が取りまとめた提案内容について、説明を行いました。

《4つの将来ビジョン》

「万博の理念を継承するまち」（Aグループ）

「75歳から住みたいと思う花園のまち」（Bグループ）

「長久手パラダイス」（Cグループ）

「長久手アートキャンパス」（Cグループ）

■（3）グループ討議 及びグループ発表

各グループで、提案書素案をもとに、提案内容の確認や追加提案・期待される効果などについて、議論を行いました。また、各グループで話し合われた内容を発表しました。

A グループ



将来ビジョン：『万博の理念を継承するまち』
(川と農の再生／未来へつなげるエコ長久手)

発表

●農

- ・長久手町内の休耕地をゼロにする。現在、食料問題は急速にクローズアップされ、多くの人はわが国の食料自給率が39%だということを認識している。このままでは大変な事態となる。休耕地ゼロ宣言をして、長久手町が国を先行して取り組んでいく。
- ・休耕地ゼロ宣言の具体例として、オーナー制や市民農園、農学校などの学習の場を作る。イベントなどを開催して、若者の参加も促す。
- ・長久手町の子ども達は学校や平成こども塾で農体験をする機会があるが、名古屋市の子供達はほとんど機会がないのではないかと。町外の人にも参加できる場をつくる。また、長久手町の子どもについても、小学校での体験のみで終わるのではなく、次へつなげていくことが必要ではないか。
- ・従来の農法にこだわるのではなく、労力の負担も考えながら、新しい農法も積極的に取り入れる。安定的に農作物を供給することや、実際に農業をしている人のことを考えると、有機農法・無農薬と限定せずに環境に優しい農を目指していくと良いのではないかと。国が定める農薬使用の基準は非常に厳しく、その基準を守りさえすれば、環境への負荷や人体への悪影響はさほど気にしなくて良いのではないかと。これらを通して、長久手ブランドを作っていけると良い。

●農と川

- ・グリーンツーリズムができるフィールドをつくる。トイレや休憩スペース、東屋などをつくり、場合によっては宿泊ができるように宿泊施設をつくったらどうか。

●川

- ・香流川の水質はかなり改善されているが、鯉が登っていくような情景があるかという点と難しい。魚道づくりも必要ではないか。中心部で難しければ、下流に親水施設をつくってはどうか。また、ピオトープも整備していく。

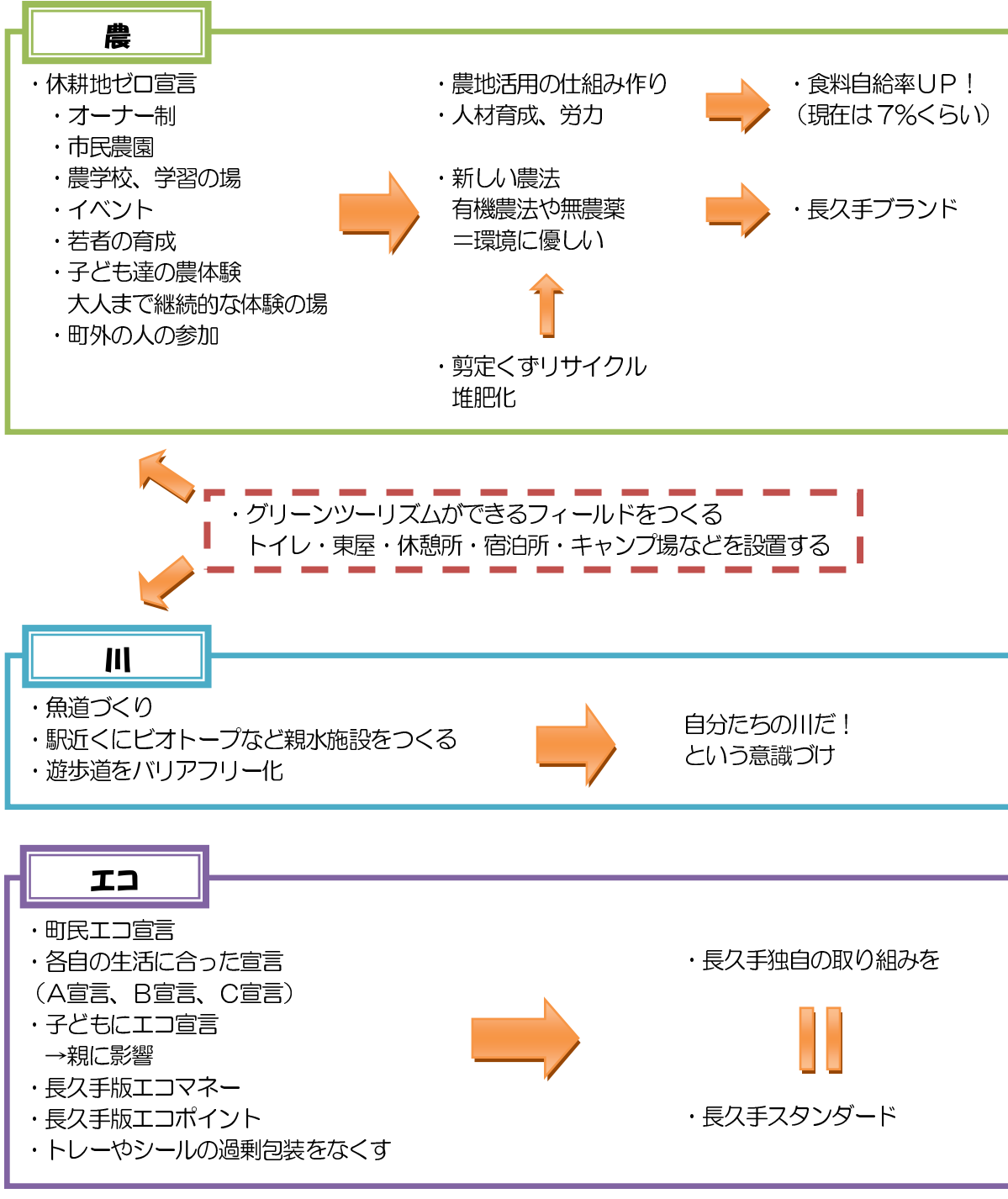
●エコ

- ・町民エコ宣言を行う。余裕のある人は太陽光発電や本格的な施設をつくることができるが、町民全員ができるわけではない。自分のレベルに合わせてエコ宣言をする。

- ・例えば、私の場合、年金生活者であるため、大かりな施設改善が出来ないが、単には乗らないようにしている。
- ・家で冷房の温度を下げない、暖房の温度を上げないなど、親や大人が子ども達に宣言すると、子ども達にも良い影響を与えられるのではないか。子ども達も含めて、それぞれのレベルに応じたエコ宣言をして、エコに対する意識をお互いに持つ。A宣言、B宣言、C宣言など、各自のレベルに応じた宣言をする。
- ・長久手のエコマネー・エコポイントを考えたらどうか。スーパーのトレーやレジ袋をできるだけ使わないようにする。長久手独自の取り組みである長久手スタンダードを築き上げ、世界に宣言していく。

グループ討議の結果

「万博の理念を継承するまち」



B グループ



将来ビジョン： 『75歳から住みたいと思う花園のまち』



『誰もが住みたいと思う花園まちづくり』

発表

●将来ビジョン「誰もが住みたいと思う花園まちづくり」

- ・75歳に限定するのはどうかという意見が出て、将来ビジョンについては次回までの宿題となった。
- ・高齢者だけでなく子どもからお年寄りまでが関われるよう、今回は「誰もが住みたいと思う花園まちづくり（仮題）」とした。

●花園の“花”

- ・各世代で“花”として持てるような町にしていきたい、また、地域の“たまり場”が“花”となっていく。世代間でもそれぞれの世代が“花”を持っているし、各地域にも“花”がある。花園の“花”をそういったところに向けた。

●施設の使い方

- ・老人福祉の家や児童館、学校を使い易い施設にする。使用する側が施設を管理するなど、様々な所で自主管理が出来るようになることが必要ではないか。

●花園のたまり場

- ・施設の使い方をもう少し自由にしていきたい。人が集まると、集まった人達と横のつながりができる。そういった“たまり場”をたくさんつくり、“たまり場”へ来た人達が横で繋がり、長久手町の友達が広がっていく。
- ・100人友達ができる100人計画まで結び付けていきたい。100人友達をつくることで、自分の住む町に愛着が持てる人が増えると期待したい。また、「挨拶がある・ありがとうがある・遊びがある」町にしていきたい。

「誰もが住みたいと思う花園まちづくり」

テーマの変更

- ・「誰もが住みたいと思う花園まちづくり」
- ・「花園」というキーワードについて
 - どの世代にも心の中に花がある
 - 花園 = 地域にあるたまり場、その花の蜜を目当てに蝶 = 人が集まってくる

背景

- ・個人のプライバシーが優先されすぎて、人と人との関係が希薄になったことへの反省があるのではないか

具体的提案

- ・長久手の友達 100 人計画「長ともの輪」

期待される効果

- ・イメージ図に描かれた「コミュニケーションが取れない子どもたち」「いろんな世代の人たちに見守られる環境づくり」は期待される効果ではないか
- ・自分の住む町に愛着がある
- ・以前の会議でも出された「あいさつがある、ありがとうがいえ、あそびがある」

C グループ



将来ビジョン： 『長久手パラダイス』『長久手アートキャンパス』



『長久手“げいじゅちゅ”キャンパス』

発表

- 2つの将来ビジョン「長久手アートキャンパス」と「長久手パラダイス」
 - ・観光系の「長久手パラダイス」と芸術系の「長久手アートキャンパス」の2つのビジョンがある。「長久手パラダイス」は今あるものを再び見直して有効活用するもので、“動”というよりも動かない“静”のものを活用することである。「長久手アートキャンパス」は、“芸術文化で子どもを育てる”や、“長久手町と愛知県立芸術大学(以下、県芸大)をつなぐことで、地域に開かれた新しい大学にする”など、地域と大学とのコラボレーション(以下、コラボ)によって新たに創造を図れる分野が出てくるのではないかと。
 - ・これらを踏まえて、“静”である「長久手パラダイス」よりも“動”である「長久手アートキャンパス」に焦点をあてることにした。
- 将来ビジョンの一体化
 - ・2つの将来ビジョンを検討した結果、「長久手パラダイス」は長久手町外の人を呼び込むための手段、或いは、長久手町の方をイベントなどで集める手段として、「長久手“げいじゅちゅ”キャンパス」の中で活かしていくこととし、2つのビジョンを一体化した。
- 将来ビジョン「長久手“げいじゅちゅ”キャンパス」
 - ・“芸術”という言葉は非常に堅く感じるため、平仮名の“げいじゅつ”も検討したが、もう少し発展させ、オタクやその筋の名人を含めた広い意味での芸術とし、赤ん坊から老人までを対象とした“げいじゅちゅ”にしたらどうか。大阪で大阪の人にジュースといえば何かと聞くと「みっくちゅじゅーちゅ」と答えるところから、これを参考に考えた。
 - ・切り口は、技もあるし、芸もあるし、美もある。発展すれば環境や観光も含められることから、広い意味での“げいじゅちゅ”とした。
- 具体的な提案内容
 - ・芸術だけでいいのか、環境も含めるべきかを議論したが、環境は非常に難しいところがあるため、ひとまず環境は置いて、芸術でスタートさせることにした。

- ・芸術は非常に整いいメージがある。長久手には、どんな芸術にまつわる人がいるのかを話し合った。芸術大学の先生方はもちろんだが、ラリーストの勝田さんのお孫さんはかなり有名であるし、モトクロスやバイオリンなどで有望な人物もいる。如何に、こういった人たちに焦点を当て、人を呼び込み、情報発信をするか。そのためには仕掛けが重要である。何か上手い仕掛けをすることで、長久手町の芸術を発展させ、広く発信していくことができるのではないか。
- ・町内の人々、大学の先生や学生、町外の人々、みんなが集まってみんなで何かをつくる。
- ・仕掛けの具体案として、芸術祭の開催、長久手をテーマとした映画の製作、長久手町と県芸大の先生や学生とのコラボなど、地域の人々を巻き込んでいく。その結果として、「長久手パラダイス」ができ、そこで得られた成果や反省を次に活かして新たな仕掛けをし、レベルアップを図っていく、といったようなサイクルにしてはどうか。
- ・結果として、感性豊かな子ども達をよりレベルの高い人に育てていったり、オタクや名人の発掘、また、長久手町から世界へ発信することに繋がっていくのではないか。
- ・瀬戸市では「せと・まるっとミュージアム」構想によって芸術活動が行われているし、名古屋市では「NAGOYA まちじゅう GA 芸術祭」というコンセプトで芸術活動が行われている。長久手は「長久手“げいじゅちゅ”キャンパス」でいったらどうか。
- ・4つの将来ビジョンを一体化、合体化させた形にしていってはどうか、といった意見も出た。

